

- 生活支援体制整備事業の第2層協議体の委託を受ける草津市社会福祉協議会では、各学区の地域の実情に応じた、多様な地域住民の生活を支える地域づくりを進めるため、地域での話し合いをする場として「医療福祉を考える会議」を各小学校区単位で展開しています。
- 平成24年度から始まった「学区の医療福祉を考える会議」では、住民の暮らしの問題を“我が事”として捉え、共感し、共感した住民から、さらに多くの住民へ共鳴の輪を広げていくことを目的とし、各学区の課題認識等に基づいて展開しています。
- 協議体には、地域の実情に応じて、多種多様な地域活動者や団体と、介護保険サービスや障害者福祉サービス、医療等の多種多様な専門職、地域包括支援センター、市役所、市社協が顔を合わせて実施しています。
- 各学区の地域の実情に応じた地域づくりを進めるため、草津市社会福祉協議会では、各学区担当の生活支援コーディネーターを配置し、本番会議(※1)やプレ会議(※2)、プレプレ会議(※3)の実施や、学区社協等の地域活動者から地域のニーズ等の情報収集や、ニーズ等を基にした企画立案や打ち合わせ、連絡調整等を行っています。

※1:本番会議…住民・社協・行政・医療や福祉関係者が集まって地域の課題や必要な取組について検討する場

※4:支援回数…本番会議・プレ会議・プレプレ会議の実施や、学区社協をはじめとする地域活動者等からの地域ニーズ等の情報収集、連絡調整、ニーズ等に基づいた企画立案・打合せなど、医療福祉を考えるために対応した回数

※2:プレ会議…本番会議の円滑な運営や論点整理等を行うための住民・社協・行政等が事前に打ち合わせを行う場

※3:プレプレ会議…プレ会議で論点整理や、前回の本番会議における意見交換の様子や、地域活動者や事業所等からの意見集約、まとめを行う場

学区	過去(~R5)の取組状況			R6年度の取組概要	各学区社協および生活支援コーディネーターにおける今後の方向性	参考:R6実績		
	開始年度	取組テーマ	延べ本番会議回数			参加メンバー	支援回数(※4)	本番会議回数
1 志津	H27	認知症になっても住み続けられる地域づくり (H27) 課題についてアンケートを実施し、認知症に関しての関心が高いこと、地域でお互いが知り合うことや居場所づくりに関心があることを共有。 (H28) 会議参加団体の活動について知り合うワークショップ (H29) 志津あんしんつながりノート(資源マップ)の作成に向けたワークショップ ⇒あんしんつながりノートを全戸配布。 (H30) 認知症になっても志津で暮らし続けるためのワークショップを開催 ⇒認知症講座開催 (H31) 身近な居場所づくりに向けたワークショップ (R2~) 志津のあんしんプロジェクトワークショップ(居場所マップ・ランチマップ・マスクケース作成) ⇒R3年度に居場所マップ・ランチマップを全戸配布 (R4~) 志津版「認知症にやさしお店」を増やしていく取組について	28回	認知症にやさしいお店を増やす取組を通じて、地域理解を広げる	 ■認知症高齢者を支える地域づくり 草津市が推進する「認知症にやさしいお店」について学区内での普及に取り組むために、「チームオレンジ(認知症高齢者を真ん中においてチームで支え合う)」についての理解を深める意見交換を実施した。 (地域の声) ■声かけ訓練は志津学区の全町内会を順番に回って実施していく。 ■市の認知症サポーター養成講座の志津版を作り、これを受けたら「志津版の認知症の人にやさしいお店・事業所」としてマップ作成につなげていきたい。 (生活支援CO) ■認知症高齢者を支える地域づくり 地域資源の見える化などの取組を通じて、高齢者や認知症になっても外出しやすいまちづくりや居場所づくりの取組支援を進めていきたい。	<ul style="list-style-type: none">・学区社会福祉協議会・まちづくり協議会・まちづくり協議会福祉プロジェクト・民生委員児童委員協議会・福祉推進委員・健康推進員連絡協議会・町内会長・郵便局・病院(内科・歯科)・訪問看護事業所・介護保険サービス事業所・障害福祉サービス事業所・薬局・地域包括支援センター・市役所・市社協 約35人	53回	3回
2 志津南	R2	地域資源の共有・周知啓発を通じた地域のつながりづくり (H29~) 会議発足に向けた勉強会と視察研修(米原市大野木長寿まちづくり会)実施 (H30) プレ会議にて志津南の現状を共有と会議テーマについて意見交換 (H31) 新型コロナウイルス感染症拡大につき第1回会議(地域福祉セミナー)中止 (R2) 中止した第1回(地域福祉セミナー)を開催し、地域での支え合いの活動について考える (R3) 高齢者の生活の実態と地域の支え合い活動を知り合うワークショップを開催 (R4)※コロナ禍につき、本番会議実施せず 役員会議(プレ会議)を重ね、今後のテーマとして「お互いの活動を知り合う」こと、知り合った情報を「地域活動マップ」として、周知を図ることが決まる。 (R5) 「お互いの活動を知り合う」ことをテーマに分野(高齢者支援・子ども支援・介護事業所)に分かれて、少人数で意見交換	5回	地域資源の共有と見える化	 ■地域資源の見える化と共有 各世代が参考にできる地域資源や地域福祉活動の事例集(地域資源マップ)を作成するために、各団体や事業所に訪問する等して、顔の見える関係づくりしながら、事例を集約した。 (地域の声) ■資源マップができ上りつつあるので、3月末には学区内の約1,500軒に配付したい。 (生活支援CO) ■地域資源の見える化と共有 地域の活動や事業所がどこでどのように活動等されているのか等の情報をとりまとめた地域資源マップの配付を通じて、人と人、人と資源をつなぐことができるよう活用方法を検討していきたい。	<ul style="list-style-type: none">・学区社会福祉協議会・民生委員児童委員協議会・地域サロン・子育てサークル・地域包括支援センター・市社協 約25~45人	55回	0回

学区		過去(~R5)の取組状況			R6年度の取組概要		各学区社協および生活支援コーディネーターにおける今後の方向性		参考:R6実績		
		開始年度	取組テーマ	延べ本番会議回数					参加メンバー	支援回数(※4)	本番会議回数
3	草津	H30	つながりを紡ぎながら、誰もが安心して暮らせる地域づくり (H30~) 「お互いの活動を知り合うこと」「活動者同士のつながりづくり」をテーマに意見交換(R2~) 健幸を語り合うプロジェクト(医療福祉を考える会議)の取組や、協力団体を地域に知つてもうきつかけづくりとして、「豚汁会」を企画。 ⇒豚汁会の開催(R2・R3実施) (R5) コロナ禍での、各団体の取組や見えてきた課題等について意見交換	5回	■草津学区の“あつらいいな”を考える 学区社協活動拠点「ゆかい家」の移転をきっかけにできた、新たな“つながり”や活動について取り組み紹介しながら、“やってみたい取組”“あつらいいな”と思える取組について意見交換を行った。	(地域の声) ■高齢者も障害者も子どもも、誰もが暮らしやすい地域にしたいという思いのもと「健幸を語り合うプロジェクト」として実施している。 ■今回、ゆかい家の2階を活用して、ひきこもりの支援を行う団体と連携して、ひきこもり者の居場所づくりに取り組むことになった。 ■障害者事業所と連携した「ミニ防災講座」を実施しており、草津中学校PTAとも連携して事業の展開につなげている。 (生活支援CO) ■ゆるやかな“つながり”づくり コロナ禍で、地域の活動の休止等により、“つながり”が希薄になってきているという実感から、会議メンバー同士の“つながり”づくりだけでなく、地域の方々とのゆるやかな“つながり”づくりの取組が必要である。 そのため、学区社協や学区社協活動拠点「ゆかい家」と連携した地域の居場所やつながりづくりに向けた支援を作っていくたい。	・学区社会福祉協議会 ・民生委員児童委員協議会 ・健康推進員連絡協議会 ・老人クラブ連合会 ・青少年育成区民会議 ・更生保護女性会 ・地域サロン ・PTA ・保護司会 ・介護保険サービス事業所 ・障害福祉サービス事業所 ・訪問看護事業所 ・ひきこもり支援を行う団体 ・地域包括支援センター ・市役所 ・市社協	22回	1回		
4	矢倉	H27	地域の課題を共有しながら、安心して暮らせる地域づくり (H27) 学区の暮らしの問題について意見交換・共有し、取り組み活動について意見交換。今後認知症について取り上げていくことが決まる。 (H28) 認知症高齢者に関する事例検討や、地域の活動について知るワークショップ (H29) 認知症高齢者が地域で暮らし続けるために、それぞれの立場で何ができるかを考えるワークショップを実施 ⇒認知症サポートー養成講座の開催 ⇒行方不明マニュアルの作成 (H30~) 地域の活動を知り合うことや、地域のつながりの場である「憩」等の「つながりの場」「居場所」を広めていくためのワークショップを実施 ⇒大塚団地や玄甫団地で「憩」が開始 ⇒矢倉学区「みらい通信」にて取組紹介 (R2~) コロナ禍で本番会議はせず、プレ会議等で今後の進め方について意見交換	14回	■訪問事業者の駐車場問題(ピカッピカッと草津) 矢倉学区の高齢者の実態などを踏まえた上で、介護サービス利用等に対する住民の理解不足から生じている訪問介護・看護事業者の駐車場問題を切り口にして、高齢者や家族が安心して暮らせる地域にするための取組について意見交換を行った。	(地域の声) ■医療福祉を考える会議のことを知らない人もたくさんいるので、同じことでも何回も繰り返し説明し、多くの団体や住民に参画してもらいたいと思っている。 ■地域によってニーズがちがうので、様々な団体が一つのことに向かって取り組みを進めることができだと感じている。 (生活支援CO) ■暮らしの困りごとの共有と困りごとにに対する地域理解を広める。 地域で暮らす中での困りごとを把握しながら、地域でどのような取組が可能か検討していく必要がある。	・学区社会福祉協議会 (総務委員・福祉ボランティア委員) ・まちづくりセンター ・民生委員児童委員協議会 ・更生保護女性会 ・身体障害者更生会 ・町内会長 ・こども園 ・小学校 ・介護保険サービス事業所 ・障害福祉サービス事業所 ・訪問看護事業所 ・地域包括支援センター ・市役所 ・市社協	66回	2回		
5	大路	—	R7年度から開始	—	■訪問事業者の駐車場問題(ピカッピカッと草津)(R7年度~) 介護サービス利用等に対する住民の理解不足から生じている訪問介護・看護事業者の駐車場問題を切り口にして、高齢者や家族が安心して暮らせる地域づくりについてをテーマに、プレ会議を実施した。	(地域の声) ■学区社協の理事などを集めて医療福祉を考える会議を実施していく。 ■訪問事業者の駐車場問題をまずは知つてもらうことが大切である。 (生活支援CO) ■学区の地域課題などの情報収集を図りながら、今後の取組や会議設置の検討を進めていきたい。	—	1回	—		
6	渋川	H27	人と人がつながりあう地域づくり (H27) 高齢者の暮らしの問題や現状について共有し、資源マップの作成することになる。 ⇒社会資源マップの作成と配付 (H28) 認知症をテーマにした座談会を実施 (H29) 渋川学区でどんな取組を進めていかワークショップを実施 ⇒学区住民に知つてもらうために、医療福祉を考える会議の新聞を発行・全戸配布 (H30~) 「つながり」を広めていくためのワークショップを実施 ⇒H31:健康相談会(2回) ⇒R2~:しぶはなちゃん健康サロン実施 (R5~) コロナ禍を経て、地域の現状と地域資源を把握し、それを住民に広く周知をしていく必要があるという意見から、資源マップの作成を進めていくこととなる。	15回	■地域資源の見える化と周知啓発 各世代が参考にできる地域資源や地域福祉活動の事例集(地域資源マップ)を作成し、民生委員・児童委員等を通じて配布し、周知啓発を行う。	(地域の声) ■今年度、完成したマップは民生委員に配付いただき、配付後の状況把握につとめている。 ■地域や事業所から渋川学区の課題を発掘し、その課題に対してみんなで考え取り組んで行けたらと考えている。 (生活支援CO) ■地域資源の見える化と共有 地域の活動や事業所がどこでどのように活動等されているのか等をとりまとめた上で、より多くの方に知つてもらうために、周知・啓発を行っていく必要がある。 ■地域のニーズの把握 生活の困りごとや地域活動のニーズを把握し、渋川学区に必要な取組について検討していく必要がある。	・学区社会福祉協議会 ・まちづくり協議会 ・民生委員児童委員協議会 ・老人クラブ ・地域サロン ・地域包括支援センター ・市役所 ・市社協	45回	4回		

学区		過去(~R5)の取組状況			R6年度の取組概要	各学区社協および生活支援コーディネーターにおける今後の方向性	参考:R6実績		
		開始年度	取組テーマ	延べ本番会議回数			参加メンバー	支援回数(※4)	本番会議回数
7	老上	H24	地域の現状を共有し、地域で見守り・支え合う仕組みづくり (H24~) 学区の現状を知り、介護サービスや認知症の事例検討等のワークショップを実施 ⇒(H24):認知症フォーラムの開催 (H27):地域資源マップ (H27~H29):徘徊模擬訓練 (H28~) 地域を見守る仕組み・学区の拠点活動についてワークショップ ⇒H30~:カフェほっこりの開設・地域支え合い送迎の開始 (H31~) 命のバトン事業などの見守り活動についてワークショップ ⇒R2:命のバトン事業の実施 (R4~) 「ピカッと草津」のモデル学区として取組をはじめる	21回	■訪問事業者の駐車場問題(ピカッと草津) 介護サービス利用等に対する住民の理解不足から生じている訪問介護・看護事業者の駐車場問題を切り口にして、高齢者や家族が安心して暮らせる地域づくりについて考え、意見交換を実施した。	(地域の声) ■「ピカッと草津」について、地域の理解を広めていくことについて、取組を進めている。 ■10軒くらいの駐車場が確保できた。年明けに駐車場の整理を行う予定。 (生活支援CO) ■暮らしの困りごとの共有(訪宅時の駐車場問題)と困りごとに対する地域理解を広める。 訪宅時の駐車場問題を切り口として、地域で暮らし続けるために必要な福祉サービスへの理解や、地域で理解を広めつつ、どのような協力ができるか検討していく必要がある。	・学区社会福祉協議会 ・町内会 ・民生委員児童委員協議会 ・日赤奉仕団 ・教育振興会 ・同和教育推進協議会 ・健康推進員連絡協議会 ・カフェほっこり ・学区ボランティア連絡協議会 ・まちづくりセンター ・こども園 ・保育園 ・介護保険サービス事業所 ・訪問看護事業所 ・地域包括支援センター ・市役所 ・市社協	87回	2回
8	老上西	H24	地域の現状を共有し、地域で支え合う仕組みを考える ※H28以前は、老上学区と合同で実施 (H28~) 老上学区と合同で、地域を見守る仕組み・学区の拠点活動についてワークショップを行う (H30~) 町会会長にも声をかけ、取り組んでみたい地域活動に関する意見交換や、認知症に関する事例検討 ⇒認知症サポーター養成講座の開催・地域安心声かけ訓練の実施 VGママの手の創設 (R3~) 地域や事業所等から、地域課題について紹介・意見交換を行う	23回	■地域で支え合う仕組みづくり 有償ボランティアの仕組みづくりを具体的に進めるために、意見交換を実施した。	(地域の声) ■「医療福祉を考える会議」は「事業をすすめる会議」ではないと考えている。各団体に集まつていただき高齢者に関する課題について話し合いをして「何か事業化できないか?」を考えている。 ■有償ボランティアの制度化について、現在検討中であるが、来年4月からなんとかスタートできればと思っている。介護事業所の方々からも「ちょっと助けてもらえたなら」という意見をもらうことができ、実現に向けて取り組んでいる。現在は「ヒト(ボランティア)」をどう集めるか?を話しているところ。 (生活支援CO) ■暮らしの困りごとの共有と地域で支え合う仕組みづくり 専門職から聞いた暮らしの困りごと等で、地域と専門職で連携しながら取り組めそうな有償ボランティアの仕組みづくりを検討していく必要がある。	・学区社会福祉協議会 ・まちづくり協議会 ・ボランティアグループ ・介護保険サービス事業所 ・訪問看護事業所 ・地域包括支援センター ・市役所 ・市社協	12回	2回
9	玉川	H29	地域の現状や暮らしの困りごとを共有し、福祉風土を広げる (H29~) 地域の課題や高齢者の暮らしの問題について共有 (H30~) 各団体や事業所の活動について知り合う意見交換 ⇒H31:高齢者施設のイベントにボランティア参加 (R2~) コロナ禍における介護や医療、各団体の取組状況などを知り合う意見交換 (R4) 住民福祉活動計画について意見交換 ⇒住民福祉活動計画(玉川スマイルプラン2023)の策定 (R5) 福祉風土を高めるため、様々なテーマを設定し、意見交換を行う ※R5・障害福祉、R6・認知症をテーマにして意見交換を実施	14回	■福祉風土づくり・担い手の育成 福祉風土を醸成するために、認知症に関する制度や他市の情報を共有し、意見交換を行った。	(地域の声) ■毎年テーマを決めて実施している。 ■令和5年度はテーマを「障害者福祉について理解を深めよう」令和6年度はテーマを「認知症高齢者について考えよう」とした。 ■広報紙はなかなか目を通してもらえないが、この会議のことも載せて、住民に広く周知していきたい。 (生活支援CO) ■暮らしの困りごとの共有と地域理解を広める。 地域の暮らしの困りごとを共有し、「わがごと」としてとらえ、地域に広めていく取組を通じて、福祉風土や担い手づくりを進めていく必要がある。	・学区社会福祉協議会 ・民生委員児童委員協議会 ・更生保護女性会 ・日赤奉仕団 ・健康推進員連絡協議会 ・介護保険サービス事業所 ・地域包括支援センター ・市役所 ・市社協	44回	2回

学区		過去(~R5)の取組状況			R6年度の取組概要	各学区社協および生活支援コーディネーターにおける今後の方向性	参考:R6実績			
		開始年度	取組テーマ	延べ本番会議回数			参加メンバー	支援回数(※4)	本番会議回数	
10	南笠東	H28	地域の現状を共有しながら、“健幸”に暮らし続けることができる地域づくり (H28～) 10年後の暮らしを想像するワークショップや学区の地域活動等を知るワークショップを実施、とりまとめを行う ⇒地域資源マップの作成 (H30～) 学区の地域活動を知り合ったり、活動の良さや必要性を語り合う懇談会を実施 ⇒R2～:地域支え合い送迎支援事業 (R3) 住民福祉活動計画の策定 (R4～) 健幸で暮らし続けることができるために必要な取組を進めよう ⇒地域懇談会と一緒に講座を開催	9回	健幸とつながりづくりをテーマにした取組を進める	(地域の声) ■高齢者の暮らしを考える “健幸”を維持しながら、地域で暮らし、地域活動を続けるために、どのような取組が必要か、地域と専門職で意見交換を行った。 (生活支援CO) ■支え合う仕組みづくり 地域で安心して暮らし続けるためには、“健幸”であることが大切という観点から、地域と専門職が連携を図りながら、健幸に関連する取組を図っていく必要がある。	・学区社会福祉協議会理事 ※理事には以下の団体を含む ・町内会長(自治連合会) ・民生委員児童委員協議会 ・健康推進員連絡協議会 ・日赤奉仕団 ・更生保護女性会 ・少年補導員 ・保護司会 ・青少年育成区民会議 ・老人クラブ ・まちづくりセンター ・小学校 ・中学校 ・地域包括支援センター ・市役所 ・市社協	約20人	21回	1回
11	山田	H25	地域活動の良さを共有しながら進める 地域の支え合いの仕組みづくり (H25～) 地域や専門職等の顔の見える関係を目指し、お互いの活動を知り合うことや、災害等の制度について知る意見交換を行う ⇒H26:地域支え合い送迎支援事業 (H27～) 安心して暮らすために、共有された地域の活動を、より広く周知していく必要があるとして、資源マップ(高齢者のあんしんガイドマップ)の作成に向けた取組を進める ⇒高齢者のあんしんガイドマップの作成 (H29～) 地域活動の良さを共有し、地域活動の良さを広めるワークショップを開催 ⇒参加団体と協力した大根焼きフォーラムの開催 (R2～) 地域の良さを知ったうえで、地域の事業所や地域サロン等の地域活動が知り合うワークショップ ⇒特別養護老人ホームえんじゅうの郷の見学 ⇒山田版すごろくゲームを作成し、地域サロンや参加事業所へ配付 ⇒老上西学区との交流会 ⇒地域サロン交流会および地域サロンと事業所の交流会の開催 (R4～) 「ピカッとした草津」のモデル学区として取組を進める	24回	訪宅時の駐車場問題から、地域の理解・福祉風土を広める	(地域の声) ■訪問事業者の駐車場問題(ピカッとした草津) 介護サービス利用等に対する住民の理解不足から生じている訪問介護・看護事業者の駐車場問題を切り口にして、地域理解を広めていくための取組について意見交換し、チラシの配付等の取組を行った。 (生活支援CO) ■暮らしの困りごとの共有(訪宅時の駐車場問題)と困りごとに対する地域理解を広める 訪宅時の駐車場問題を切り口として、地域で暮らし続けるために必要な福祉サービスへの理解や、地域で理解を広めつつ、どのような協力ができるか検討していく必要がある。	・学区社会福祉協議会 ・民生委員児童委員協議会 ・まちづくり協議会 ・町内会 ・老人クラブ ・地域サロン ・ボランティアグループ ・介護保険サービス事業所 ・地域包括支援センター ・市役所 ・市社協	約45人	67回	2回
12	笠縫	H28	暮らしの困りごとを共有しながら進める 地域で見守る仕組みづくり (H28～) 高齢者の暮らしの困りごとをテーマに意見交換し、認知症高齢者に対する地域理解を広めていく取組を実施していくこととなる。 ⇒H29～H31:認知症に関する講座や勉強会を地域住民を対象に開催(計5回開催) ⇒H31～:おでかけふれ愛訓練の開催(毎年開催) (R3～) 高齢者の暮らしの困りごと地域の取組や事業所の活動を知り合うことや、顔の見える関係づくり、支え合いの仕組みづくりを進めていくため、福祉委員や町内会長、民生委員・児童委員全員を対象としたワークショップを開催し、地域の見守り活動に意見として反映させていく取組を進める ⇒R3～:3回開催 ⇒R5～:ワークショップや医療福祉を考える会議の取組について新聞(広報紙)を作成し、回覧等で住民への周知を図る。	39回	誰もが気軽に集える居場所づくり	(地域の声) ■福祉風土づくり・担い手の育成 福祉委員の活動普及を図るために、「担い手研修」を開催し期待される役割や具体的な活動のしかたについて啓発した。 ■見守り・支え合う仕組みづくり 今ある活動(のびのびサークルや地域サロン)と専門職等の相談会等とコラボ企画を試験的に実施しながら、どのような形で進めていくのか、取組を検討した。11月28日に実施予定のワーキング会議にて、気軽に集える居場所についての意見交換を実施する予定。	・学区社会福祉協議会 ・まちづくり協議会 ・自治連合会 ・民生委員児童委員協議会 ・まちづくりセンター ・薬局 ・地域包括支援センター ・市役所 ・市社協 ※ワークショップ開催時は上記に加えて以下のメンバーも参加 ・各町内会長 ・各町内の福祉委員 ・民生委員児童委員 ・介護保険サービス事業所 ・障害福祉サービス事業所 ・薬局	約70人	65回	6回

学区		過去(~R5)の取組状況			R6年度の取組概要	各学区社協および生活支援コーディネーターにおける今後の方向性	参考:R6実績		
		開始年度	取組テーマ	延べ本番会議回数			参加メンバー	支援回数(※4)	本番会議回数
13	笠縫東	H24	暮らしの困りごとの共有と顔の見える関係づくりを通じた地域で支え合う仕組みづくり (H24~) 認知症高齢者や老老介護、一人暮らし高齢者の暮らしの実態や課題について、事例を通じて意見交換し、地域の課題について考える (H27~) 地域の課題の共有から、認知症ケアパスの作成と周知啓発に向けた取組を進める ⇒認知症ケアパスの作成と周知啓発 (H28~) 高齢者の暮らしの課題等から、高齢者の居場所である「地域サロン」の活動にスポットをあて、活動の良さや活性化等に向けた取組について意見交換を実施。 (H31~) 地域にある介護事業所と顔の見える関係を作るために、事業所を知ることをテーマに意見交換を実施。 (R4~) 「ピカッとした草津」のモデル学区として取組を進める	20回	訪宅時の駐車場問題から、地域の理解・福祉風土を広める ■訪問事業者の駐車場問題(ピカッとした草津) 令和4年度から検討してきた経緯を踏まえ、まちづくり協議会と連携した取組の在り方について、検討しつつ引き続き地域理解を広げた。	(地域の声) ■地域の高齢者から悩みごとをたくさん聞くことがあり、その中に駐車場問題が上がってきた。 ■駐車場問題を知ったことをきっかけとして、電動自転車を購入し、月2~3回は地域を訪問する事業所の方々に使用してもらっている。 ■駐車場問題を地域で取り組んでいくために、三角コーンに事業所名を書いて個人宅の駐車場には置くようにしようと話している。 (生活支援CO) ■暮らしの困りごとの共有(訪宅時の駐車場問題)と困りごとにに対する地域理解を広める 訪宅時の駐車場問題を切り口として、地域で暮らし続けるために必要な福祉サービスへの理解や、地域で理解を広めつつ、どのような協力ができるか検討していく必要がある。	・学区社会福祉協議会 ・まちづくりセンター ・ボランティア委員 ・まちづくり協議会 ・民生委員児童委員協議会 ・介護保険サービス事業所 ・障害福祉サービス事業所 ・訪問看護事業所 ・地域包括支援センター ・市役所 ・市社協	47回	1回
14	常盤	H27	いつまでも暮らし続けることができる地域づくり (H27) 高齢者の暮らしの実態を共有し、学区の地域活動について意見交換したうえで、資源マップを作成する ⇒資源マップの作成し、全戸配布し周知を図る。 (H28~) 事例を通じて、地域活動や介護保険サービス、在宅医療を知った上で、地域活動の大切さや自分らしく暮らし続けるために必要な取組について意見交換。 ⇒H30~H31:周知啓発のため医療福祉を考える会議の新聞を発行	13回	暮らしの困りごとを共有し、“我がごと”として考える ■地域で健康に暮らし続けるために必要な取組 住み慣れた地域で元気に暮らし続けるために、今からできることや地域でできること等について意見交換を行った。	(地域の声) ■市街化区域がない学区であり、人口が減少し続けている。ずっと住み続けられるために、どうしたらいいか、危機感は強く感じている。 ■電球を換える「お助け隊」のような取組がすすめられないか、検討をしている。 (生活支援CO) ■暮らしの困りごとの共有と地域理解を広める 地域の暮らしの困りごとを共有し、“わがごと”としてとらえ、地域に広めていく取組が必要。	・学区社会福祉協議会 ・まちづくり協議会 ・自治連合会 ・民生委員児童委員協議会 ・身体障害者更生会 ・日赤奉仕団 ・更生保護女性会 ・ほのほのサークル ・まちづくりセンター ・地域包括支援センター ・介護保険サービス事業所 ・障害福祉サービス事業所 ・市役所 ・市社協	59回	2回